幼稚園

ワクワク・ドキドキ 大学探検遠足！

附属幼稚園・教諭　上野由利子

三月　お別れ遠足

毎年三月に、年長児の卒園をひかえて、全園児一緒に遠足に出かけます。

一年間仲良く遊んだ友達とのお別れを兼ねて、年長・年中・年少児が入混じった少人数編成のグループに分かれて行うのです。

幼稚園の裏門を出るとすぐ大学構内に入ります。今回は、近くにあるけれども、知らないことがいっぱいの大学に、遠足に出かけることにしました。

大学やそこで行われている研究活動を、子どもたちなりに身近に感じてほしいと考えたからです。事前に大学の先生方と話し合い、園児の実情を知らせるとともに、子どもたちが興味をもてる内容を検討しながら当日を迎えました。

コンピュータ制御の機械に興奮する園児

大学の研究室っておもしろい

学内の散歩は何度も経験している子どもたちですが、大学生が勉強している部屋に入るというので、初めは緊張しながら出発しました。

八つのグループは、重ならないように決められたコースに従って探検します。起伏のある敷地に、入り組んで建っている校舎の廊下は、平坦に歩いていても知らぬ間に階が変わっていたり、行き止まりになったり、薄暗いところがあったり、迷路みたいでそれだけでワクワクします。

ひょっこり出会った他のグループの友だちとすれ違うと、見てきたばかりの研究室のおもしろさを互いに自慢し合い、また次への期待を高めながら進んでいきました。

興味津々

家庭科の研究室では、外国の文化についての話を、写真を見ながら一生懸命聞いていました。民族衣装を照れながら着せてもらう子どももいました。

外国の子どもたちが歌うテープに聞き入り、所々で笑い声を上げ、その歌声に親しみを感じているようでした。珍しいおもちゃを手に、じっと覗いたり動かしてみたり、部屋中に置いてある全てのものに興味を示して楽しんでいました。

技術棟のロビーでは、音や床に引いてある線に反応するロボットと遊び、コンピューター制御の機械に真剣に見入っていました。自分が押したスイッチで動き出すと大興奮、不思議な装置に大喜びでした。

地学の研究室では所属の学生から説明を受け、ペットボトルでできる実験を全員が体験させてもらいました。お土産にもらった「鉄にくっつく石」（磁鉄鉱）をポケットの中でにぎりしめ、時々取り出しては帰り道の壁などにあてて、くっつくかどうかを試していました。

その他、学生が作った仕掛け絵本に触れたり、創作絵本を読んでもらったり、歌話を演じてもらったり、生物研究室で飼われているリスに用意していった人参をあげたりなど、盛りだくさんの一日でした。

家庭科研究室で

附属ならではの活動

日頃幼児に触れる機会のない大学の先生方には、八回も次々やってきて、思い思いに動き回る子どもたちを相手にするのは、大変だったのではと思います。

しかし、先生方が小さい子どもも楽しめるようにと工夫してくださったおかげで、予想以上に有意義な一日となりました。

迎えにこられたおうちの人に、遠足での発見や驚きを一生懸命に話す子どもたちを見ていると、大学の附属幼稚園ならではの楽しい遠足になったと実感しました。

ひょっとすれば、将来、今日の感激を経験した園児の中から研究者が生まれるかもしれません。

小学校

学びと遊びの輪をひろげよう

―PTA研究会―

附属小学校・教諭　橋本　博孝

五つのテーマを語り合う

附属小学校では、保護者のみなさんと教員とが、いろんな経験をもとに当面するさまざまな課題について話し合うPTA研究会を毎年開いています。ここ数年は、通学校区ごとに地域を語り合う取り組みを続けてきました。子どもの学年が違う保護者がそれぞれの経験を出し合うので、子育ての見通しを持つことにもつながりました。

今年度は「学びと遊びの輪をひろげよう」をテーマに十一月二九日の土曜日に行いました。土曜日にしたのは、ふだん学校に来られる機会の少ないお父さんたちにも参加していただこうと考えてのことです。

一・二校時は授業参観です。お父さんだけでなく、おじいさんやおばあさんの参加もあって、子どもたちは月ごとの学級懇談の参観以上にはりきったり、緊張したりしていました。

その後は、大きく二つの内容にわかれました。

一つは「ミニ文化講座」です。附属小学校の教員が、保護者のみなさんから要望があったテーマについて話し、いっしょに語り合うものです。全部で五つつくりました。

○宿題や家庭学習の進め方
○日記・読書とことばの力
○社会や自然への目の向けさせ方
○子どものくらしと体づくり
○思春期の子どもと向き合う

教員が最初に話題提供をしましたが、「講義」にならないように参加された保護者のみなさんの声を聞きながら進めました。

朗読を楽しもう

バルーン・アート

保護者の指導で分科会

もう一つは「親子で楽しもうコーナー」です。保護者のみなさんが、子どもたちといっしょにいろんな遊びでつながりを深めるものです。どこも超満員の盛況でした。

○朗読を楽しもう
○バルーン・アート
○お手玉づくり
○紙工作
○昔の遊び

「朗読を楽しもう」では、演劇サークルをしておられるお母さんたちが、絵本の読み聞かせをしてくれました。

「バルーン・アート」は風船でいろんな形を作っていくものです。これも、くわしいお母さんが指導してくれました。

今後、このように保護者が特技を生かして計画してくださる分科会を、もっと増やしていきたいと思います。

お手玉づくり

いっしょに楽しむ大切さ

お互いに知り合いでないお父さんたちは、はじめは壁にもたれて腕組みをされている方が多かったのですが、だんだん子どもの顔にもどって、いっしょに楽しむ輪に加わっていきました。保護者のみなさんも子どもたちも私たち教員も、楽しい半日を過ごすことができました。

中学校

国語力の向上をめざして

附属中学校・教諭　植西　浩一

コミュニケーション能力を高める

附属中学校は、文部科学省と奈良県教育委員会からの研究指定を受け、本年度から国語力向上モデル事業校としての取り組みを進めています。研究主題は、「コミュニケーション能力を育てる指導と評価の工夫」に定めました。

相互理解のためにも、合意形成のためにも、言葉によるコミュニケーション能力をつけることは大切です。そのための評価改善も求められています。こう考えてのテーマ設定です。生徒たちにつけたい力としては、特に次の二点を考えています。

○双方向的に話したり聞いたりする力

○目的・相手・立場に応じて適切に書く力

一年次の取り組み

一年次にあたる本年度は、話すこと・聞くことの能力分析と教材開発、総合的な学習と結んでの指導、説得力を増すための意見文の指導、通知票付票（昨年度から全教科で作成し、学期末に通知票に添えて渡しているもので、学習者の到達度の自己評価と学びの振り返りを記入した評価カードです）の改善と活用などに取り組んでいます。

また、同じ研究指定を受けた山添中学校との実践・研究の交流も行っており、大学の松川利広教授、県立教育研究所の植村育代先生のご指導も受けての研究協議は、得ることが多く、時間を忘れるほどです。前回の大学での会合も気がつけば、閉門の午後十一時、あわてて後片づけをして大学を出たほどです。附属中学校の実践を広い視野で問い直し、一般化を図るよい機会になっています。

教育研究会での公開授業

中間発表会

中間発表会は、本校の教育研究会と併せ、十一月七日に開催、八尋薫子教諭が、「コミュニケーションの場面を重視した授業実践」を発表し、私が「対話」の授業を公開しました。多くの県内外の先生方や大学の国語科教育の先生・学生のみなさんの参加を得て、教室は、満員になりました。

授業の内容は、意志決定を迫られている友人の相談にのるという場面設定で、生徒たちの創作した対話劇の検討を通して、よりよい対話のあり方を考えるというものです。

対話の難しさを知る

生徒の一人は、授業を振り返ってこう書いています。

三つの対話を聞いて思ったことは、「対話は難しい」ということです。はっきり自分の意見を言ってしまうと、相手をそっちの意見に誘導してしまい、しっかり相手の話を聞いてあげられなくなってしまいます。けれど、だからといってあいまいに話すと解決できなくなります。対話は、相手の意見をしっかり聞き、自分の意見もしっかりいうというバランスをとらなければ成り立ちません。

さらに実践と研究を進める

研究発表の内容は、協同的な学びの場を工夫した意見文の学習と評価の提案で、書きたいという意欲や書こうとする内容を、学習者相互のコミュニケーションによって高めることを意図した実践の報告です。

研究協議では、信州大学の益地憲一先生よりコミュニケーション能力育成の方途と評価について多くのご示唆をいただきました。また、司会の県立教育研究所の岸本憲一良先生は、先生方からたくさんのご意見を引き出してくださいました。両先生をはじめ、お忙しい中、附属中学校にきてくださった県内外の先生方に感謝し、さらに実践・研究を進めていきたいと考えています。